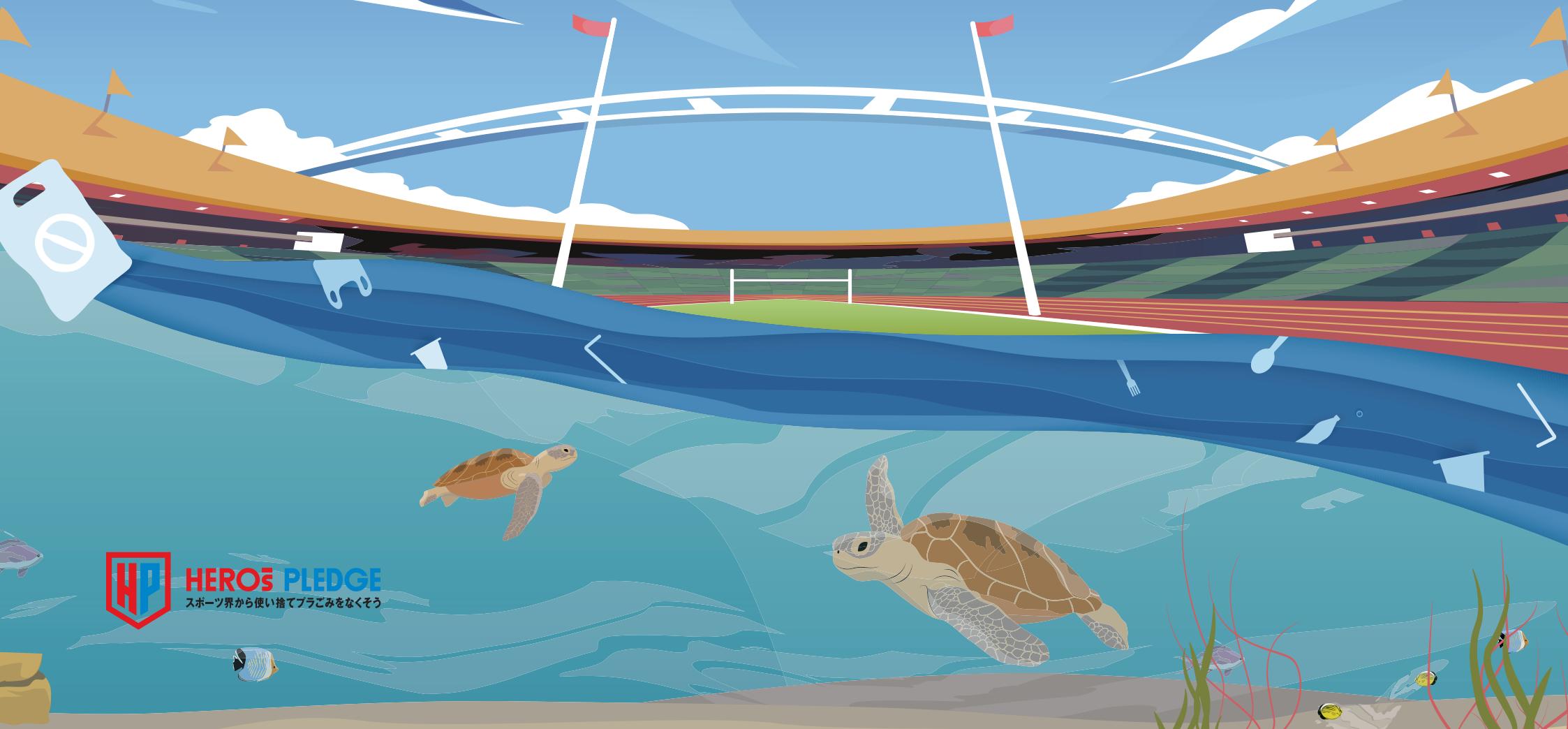


スポーツイベントにおける
使い捨てプラスチック削減

GUIDEBOOK



HEROS PLEDGE

スポーツ界から使い捨てプラスチックをなくそう

はじめに

今、スポーツ界は、飲食物の提供、グッズの販売、応援グッズの使用等、様々な場面で使い捨てプラスチックに依存しています。

プラスチックは安価で便利ですが、気候変動や海洋プラスチック汚染、石油資源の減少等、様々な環境問題と深く関わっています。

気候変動はすでに深刻化しつつあり、雪の減少や猛暑等、スポーツを楽しむ機会が脅かされつつあります。

世界各地で使い捨てプラスチック削減の取組が加速する今、

HEROs PLEDGEは、スポーツ界における使い捨てプラスチック削減の第一歩を後押しするためにガイドブックを作成しました。

スポーツ界が一丸となり、まずは身近な行動から始め、大きなムーブメントを起こしていきましょう！

本ガイドブックの制作に際し、ご協力いただいた皆様に心より感謝いたします。

自然がなければスポーツはできません。水鳥の羽から作られるシャトルを使うバドミントン競技出身者としても、私たちは地球温暖化や生物多様性に敏感でなくてはならないと思います。スポーツを通して、持続可能な未来のために環境保全に取り組みましょう。

元バドミントン選手
栗原 文音さん



近年の酷暑により、子どもたちのスポーツ環境が悪化しています。スポーツの魅力を次世代を担う子どもたちに残すため、私たち大人には地球環境を守る責任があります。まずは身近にある使い捨てプラスチックをなくすことから始め、責任を果たしていきましょう。

元ラグビー選手
五郎丸 歩さん



私たちが取り組む理由

環境問題がスポーツイベントに与える影響が顕在化する中、HEROs PLEDGEパートナーアスリートの皆さんも、使い捨てプラスチック削減に向けた取組の必要性を呼びかけています。メッセージを通じて、スポーツ現場での実践的な行動変容が一步でも前に進むよう、祈っています。

かけがえのない自然を守り、大好きなスノースポーツを次の世代につないでいきたい。一人ひとりの小さな行動が積み重なって、大きな変化につながると信じて、身近な一步から始めています。

スキージャンプ選手
高梨 沙羅さん



バスケットボールは室内競技で、暑ければクーラーをいれて何の支障もなくプレーできます。しかし地方にはエアコンがない体育館が多くあり、猛暑日は子どもたちの練習や試合環境を妨げています。また、同じスポーツ界のアウトドア競技の仲間達が気候変動の影響を受け、大会が中止になっており、他人事ではありません。今こそ沢山の観客を動員するスポーツ界が一致団結して身近な使い捨てプラスチックの削減に取り組み、地域、そして社会のリーダーとなり、アスリートが持つ力を発揮しましょう。

バスケットボール選手
田渡 凌さん



INDEX

基礎編

まずは知る 使い捨てプラスチック削減の基本

- 5 スポーツと使い捨てプラスチックをめぐる6つの疑問
- 6 使い捨てプラスチックは、どのような問題につながるの？
- 7 どのように、スポーツに影響を与えているの？
- 8 スポーツ界では、どのような使い捨てプラスチックが使われているの？
- 9 スポーツ界での削減は進んでいるの？
- 10 使い捨てプラスチックによる環境負荷は、どうやって減らせるの？
- 11 削減方法を検討するフローチャート
- 12 代表的な使い捨てプラスチック対策
 - 13 ①レジ袋・プラスチック袋の提供停止
 - 16 ②応援グッズ・ノベルティの見直し
 - 19 ③マイボトルの促進と給水機の設置
 - 22 ④リユース食器の使用
 - 25 ⑤バイオ素材の食器への切替え
 - 28 ⑥分別の徹底による再資源化
- 31 コラム：使い捨てプラスチックの削減はチームに何をもたらすの？
- 32 参考：使い捨てプラスチック削減の取組一覧

実践編

アクションへ 使い捨てプラスチック削減の実践

- 37 使い捨てプラスチック削減の実践的ステップ
- 38 STEP1：現状を把握する
- 41 STEP2：組織内の体制を整える
- 43 STEP3：取組を検討する
- 45 STEP4：組織外のステークホルダーと連携する
- 47 STEP5：取組を導入・評価する
- 49 実例 先進チームに学ぶ実践ステップ
- 51 HEROs PLEDGEに参加しよう
- 52 使い捨てプラスチック削減を、当たり前に

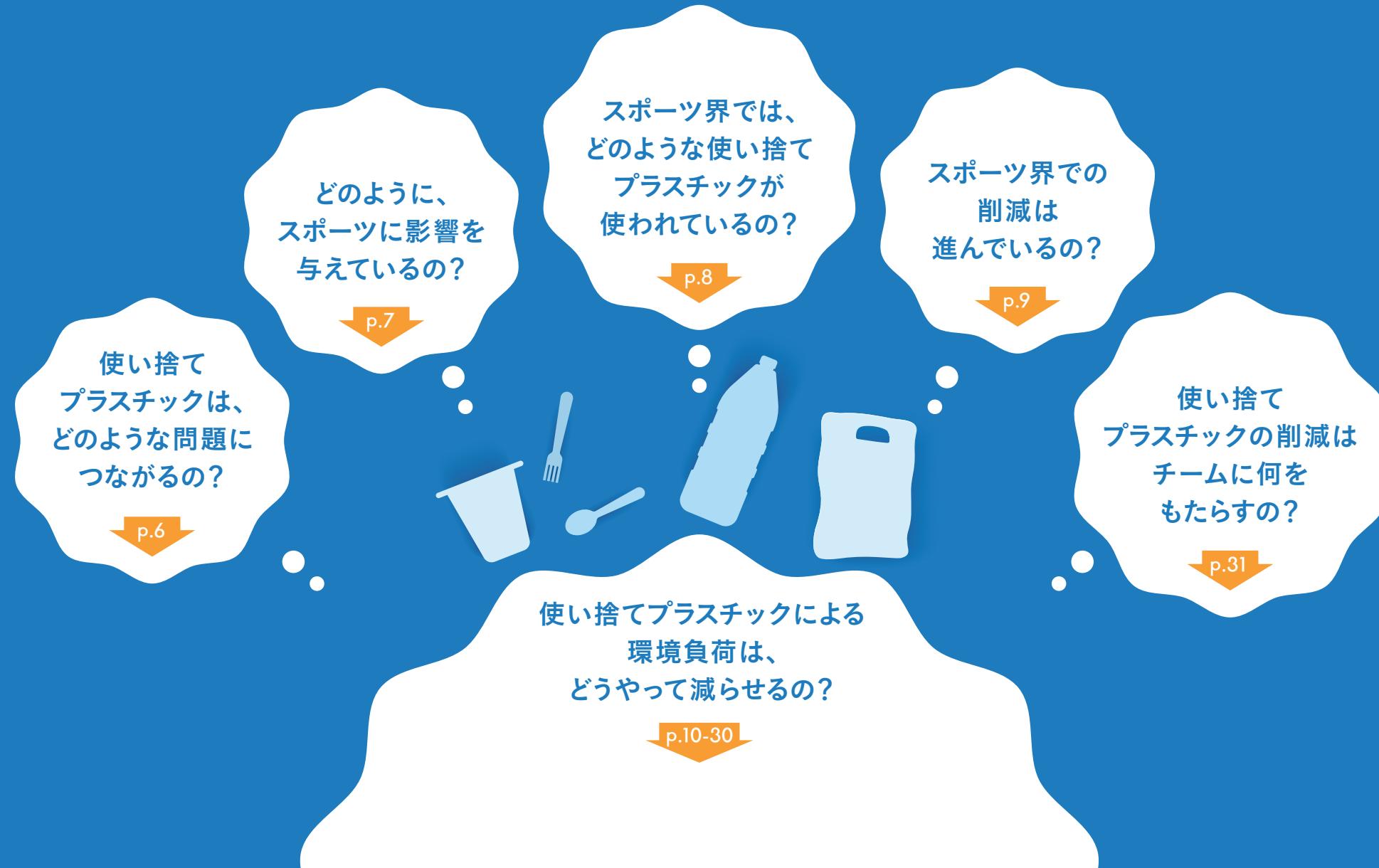
基 础 編

まずは知る
使い捨てプラスチック削減の基本

スポーツと使い捨てプラスチックをめぐる6つの疑問

使い捨てプラスチックとは、一度の使用で捨てられるプラスチックのことです。

基礎編では、スポーツと使い捨てプラスチックをめぐる、以下の6つの疑問に答えます。ご関心のあるテーマから、自由に読み進めてください。



● 使い捨てプラスチックは、どのような問題につながるの？

使い捨てプラスチックの過剰使用は、気候変動の原因となるCO₂の排出、海洋プラスチック汚染、石油資源の減少等、多方面から環境に悪影響を及ぼします。環境負荷を低減するためには、使い捨てプラスチックの大胆な削減が不可欠です。

1

二酸化炭素(CO₂)排出



プラスチックは、製造・輸送、そしてごみとして焼却する時にも、気候変動の原因となるCO₂を大量に排出しています。

2

海洋プラスチック汚染



海洋ごみの6割超がプラスチックです。海洋プラスチックは生物の誤飲・絡まり、マイクロプラスチックの体内蓄積を通じて、生物多様性や人体にも悪影響を及ぼします。

3

石油資源の減少



2020年時点の石油確認埋蔵量・生産量に基づくと、石油が採掘できるのは残り53.5年間と言われています。世界全体の年間石油消費量のうち、約6%がプラスチックの製造に用いられています。



どのように、スポーツに影響を与えてるの？

使い捨てプラスチックの過剰消費は、すでに様々な形でスポーツにも影響を及ぼしています。

»»» 気候変動を通じた影響

気候変動の加速により、猛暑日や豪雨の発生頻度が増加しています。夏の屋外スポーツでは、選手や観客の熱中症リスクが高まり、試合の中止等も多発しています。ウインターランドスポーツも、雪不足等により影響を受けています。



2023年、夏の全国高校野球の暑さ対策として、クーリングタイムが導入されました。日中の試合開催が難しくなり、2024年からは、朝夕2部制が試験的に導入されました。

国際スキー・スノーボード連盟は、2023-24シーズンに、雪不足・悪天候の理由により26試合を中止しました。ウインターランドスポーツは雪不足により、人工雪を降らせなければ開催できなくなりつつあります。

»»» 海洋ごみを通じた影響

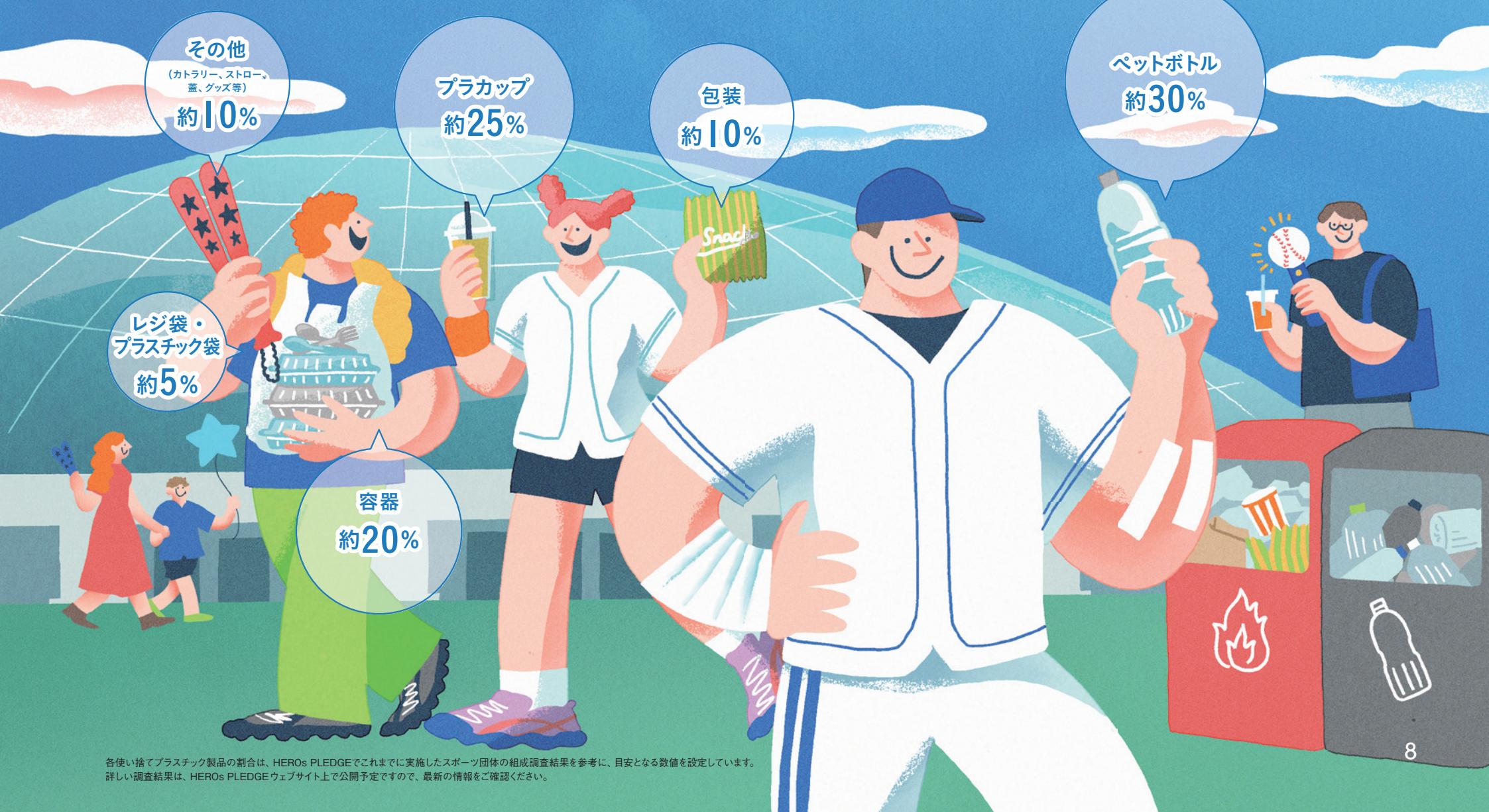
海洋ごみは、マリンスポーツやビーチスポーツの競技や観戦環境を悪化させています。ごみが障害となって選手のパフォーマンスに影響が及ぶリスクや、海水の透明度や清潔さが損なわれ、選手の健康リスクや観戦環境の質の低下につながるリスクが高まっています。



2016年、リオ五輪のセーリング競技会場では、大会前から水質汚染が問題視されていました。実際に大会では、船舶にごみ袋が絡まるトラブルが発生し、転覆の恐れもある等の声も挙がっていました。

● スポーツ界では、どのような使い捨てプラスチックが使われているの？

スポーツ界は、飲食物の提供、グッズの販売、競技関連備品の使用等、様々な場面で使い捨てプラスチックに依存しており、大量の使用・廃棄につながっています。



各使い捨てプラスチック製品の割合は、HEROs PLEDGEでこれまでに実施したスポーツ団体の組成調査結果を参考に、目安となる数値を設定しています。
詳しい調査結果は、HEROs PLEDGEウェブサイト上で公開予定ですので、最新の情報をご確認ください。

● スポーツ界での削減は進んでいるの？

使い捨てプラスチック削減に向けた取組は、世界的に広がりを見せており、スポーツ界でも一般的になりつつあります。

オリンピックが目指す 使い捨てプラスチックの利用廃止



2018年、国際オリンピック委員会はスポーツイベントでの使い捨てプラスチック利用廃止に向けた取組をスタートしました。2024年に開催されたパリ五輪では、競技場へのペットボトルの持ち込みが原則禁止となりました。

プレミアリーグ全クラブが取り組む 使い捨てプラスチック削減



イングランドのプロサッカーリーグであるプレミアリーグでは、2023/24シーズンにおいて、所属する全20クラブが、使い捨てプラスチック削減に向けたアクションを実行しました。

アスリートによる 使い捨てプラスチック削減キャンペーン



リオ・東京オリンピックで金メダルを獲得した、セーリング選手のハンナ・ミルズは、2019年、アスリートやファンに対して、使い捨てプラスチック削減を呼びかけるキャンペーンを始めました。国際オリンピック委員会も、このキャンペーンを支援しています。

ウィンブルドン選手権における 使い捨てプラスチック削減施策



テニスのウィンブルドン選手権では、資源効率向上の取組の一環として、マイボトル用給水機の設置や、グッズを包むプラスチック包装の素材代替等、使い捨てプラスチック削減に資する取組を推進しています。

● 使い捨てプラスチックによる環境負荷は、どうやって減らせるの？

「使い捨てプラスチックの削減」というと、まず「リサイクル」を思い浮かべる人が多いかもしれません。でも、大切なのは、「そもそも本当に必要か？」「せめて使用量を減らせないか？」「より環境負荷の低い素材に変えられないか？」等、より根本的な見直しを図ることです。

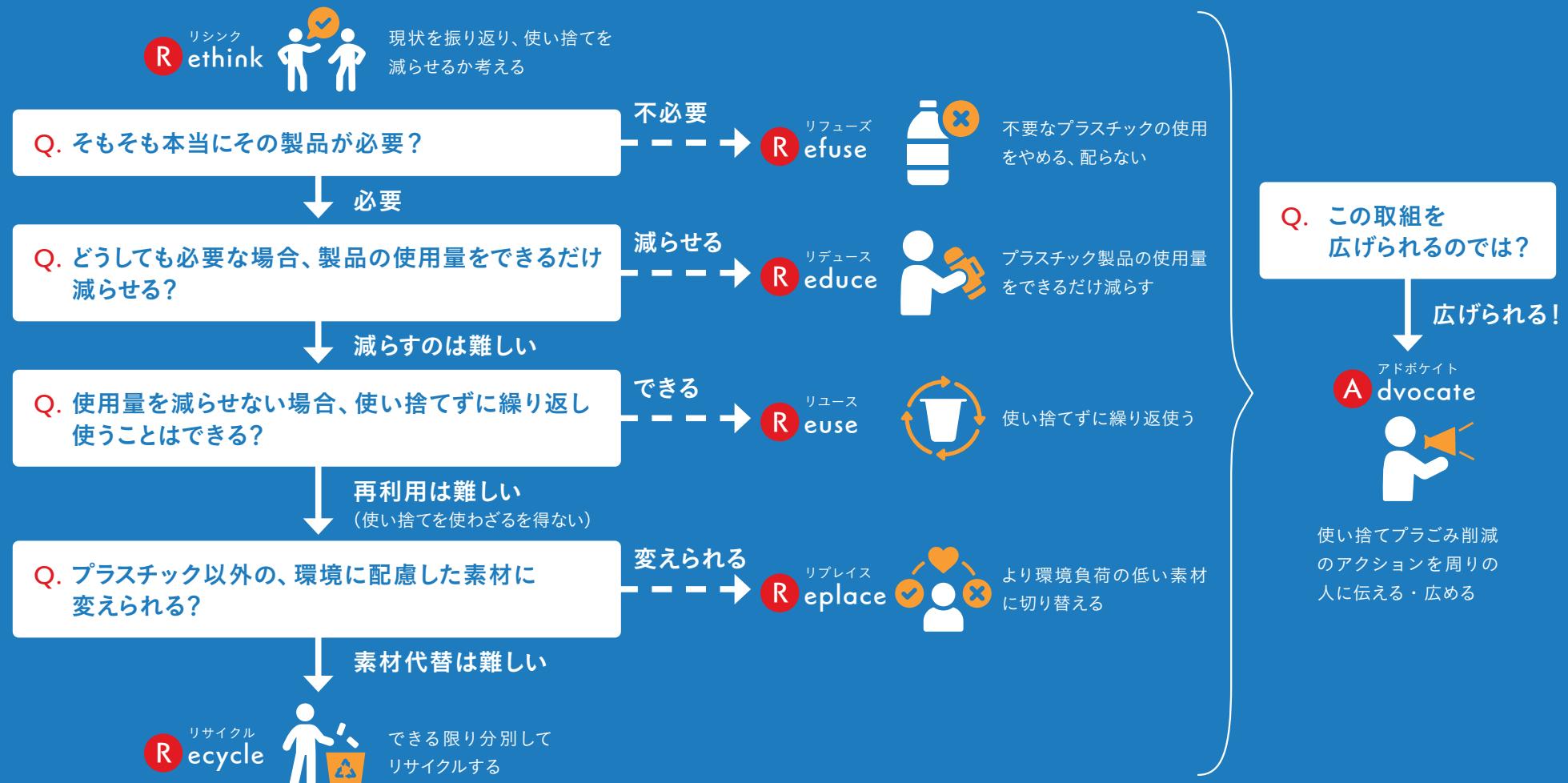
HEROs PLEDGEでは、使い捨てプラスチックを効果的に減らす行動方針「6R+A」を提案しています。

使い捨てプラスチックによる環境負荷を効果的に減らす行動指針 **6R + A**



削減方法を検討するフローチャート

»»> 6R + A のうち、どのような方法に取り組むかは、組織や製品ごとに異なります。一般的には、「そもそも本当にその製品が必要か?」を問い合わせ直す Rethink から始め、下図のフローチャートに従って対策をとることで、削減効果を最大化できます。
人手、物品・設備、コスト、コミュニケーション等の観点で、可能な範囲でなるべく削減効果の高い取組を実施することを推奨します。



代表的な使い捨てプラスチック対策

>>> ここからは、削減方策の代表例として、以下の6つの方法を詳しく紹介します。

1

レジ袋・プラスチック袋の提供停止



リフューズ
Refuse
P.13-15

2

応援グッズ・ノベルティの見直し



リシンク
Rethink
P.16-18

3

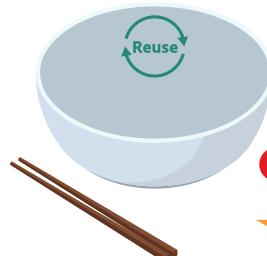
マイボトル促進と給水機の設置



リデュース
Reduce
P.19-21

4

リユース食器の使用



リユース
Reuse
P.22-24

5

バイオ素材の食器への切替え



リプレイス
Replace
P.25-27

6

分別の徹底による再資源化



リサイクル
Recycle
P.28-30



リユース

Refuse

使用をやめる、配らない
不要なプラスチックの

スポーツ会場では、飲食物の提供やグッズの販売に伴い、多くのレジ袋・プラスチック袋が利用されています。有償無償に関わらずレジ袋・プラスチック袋の提供を停止することで、大きな負担なく使い捨てプラスチックの排出を削減することが可能です。チラシ等を入れてファンに配布される、スポンサー名入りの袋も、過剰な配布となっていないか、振り返るとよいでしょう。

✓ 実施すべきアクション

方針の周知

飲食物・物販の出店者に対し、レジ袋・プラスチック袋の提供を停止したい方針を知らせ、協力を依頼します。

代替品の検討・用意

必要に応じ、紙袋やエコバッグの提供・販売を検討します。エコバッグを販売する場合には、かえって環境負荷を増やさないよう、繰り返し利用するようファンに呼びかけます。

ファンへの啓発・呼びかけ

ファンに、レジ袋・プラスチック袋の提供停止の意義や、マイバッグの持参について周知・依頼します。

STADIUM SHOP





取組に必要なものは？

ファンや出店者等、関係者の理解は不可欠となる一方、追加的な人手、設備、コストは比較的少ないため、大きな負担なく実施できる施策と言えます。

検討事項	必要なもの・こと	補足
人手	 <ul style="list-style-type: none"> 基本的になし 	<ul style="list-style-type: none"> 初期は周知・運用・管理のための人手が必要ですが、取組が定着すれば不要となります。
物品・設備	 <ul style="list-style-type: none"> 紙袋やエコバッグ等の代替品 案内ツール 	<ul style="list-style-type: none"> 紙袋やエコバッグ等の代替品を提供または販売する場合は、どのようなものを調達するかを検討し、準備します。
コスト	 <ul style="list-style-type: none"> 代替品の調達費用 	<ul style="list-style-type: none"> レジ袋・プラスチック袋の費用そのものは削減できますが、紙袋・エコバッグ等の代替品を提供・販売する場合は、その調達費用がかかります。
コミュニケーション	 <ul style="list-style-type: none"> 飲食出店者との対話 ファンへの啓発 	<ul style="list-style-type: none"> 飲食出店者の中には、オペレーション上の理由でレジ袋・プラスチック袋の提供停止に懸念を抱く方もいるため、交渉が必要となる場合があります。 ファンにも、レジ袋・プラスチック袋削減の意義とマイバッグ持参について、理解・協力してもらう必要があります。

リユース

Refuse

使用をやめる、
不要なプラスチックの
ない

事例

2025年日本国際博覧会(大阪・関西万博)



▲大阪・関西万博 大屋根リング (提供:2025年日本国際博覧会協会)

大阪・関西万博では、持続可能性の実現を目指し、改定版＜EXPO 2025 グリーンビジョン＞を公表し、プラスチック削減のための対策として、「レジ袋、プラスチックバッグの配布禁止」と、それに伴うマイバッグ・マイボトルの持ち込みを推奨しました。

京都サンガF.C.



▲京都サンガF.C.コラボふろしき

京都サンガF.C.は、サンガスタジアム by KYOCERAでのホームゲームにおいて、2020年からグルメエリアやグッズ売場でプラスチック製のレジ袋や容器類を紙製品で代用する等、環境に配慮した運営を行っています。さらに、公益財団法人環境かめおか主催のふろしきの使い方を体験できるイベントでは、アンケート回答者100名にコラボふろしきをプレゼントする等、地域から広がる環境保全意識の醸成に取り組んでいます。

リシンク
Rethink使い捨てを減らせるか考える
現状を振り返り、

スポーツ観戦における応援グッズやノベルティは、スポーツ観戦を盛り上げる重要なアイテムですが、残念ながら試合やイベント終了後にすぐに捨てられてしまうものも少なくありません。

✓ 実施すべきアクション

現状の見直し

現在導入している応援グッズやノベルティ、スポンサー提供の販促物が、使い捨てが前提か、繰り返し使用が前提かを確認します。そのアイテムを希望するファンのみが受け取れるように、配布方法を改善することが望まれます。

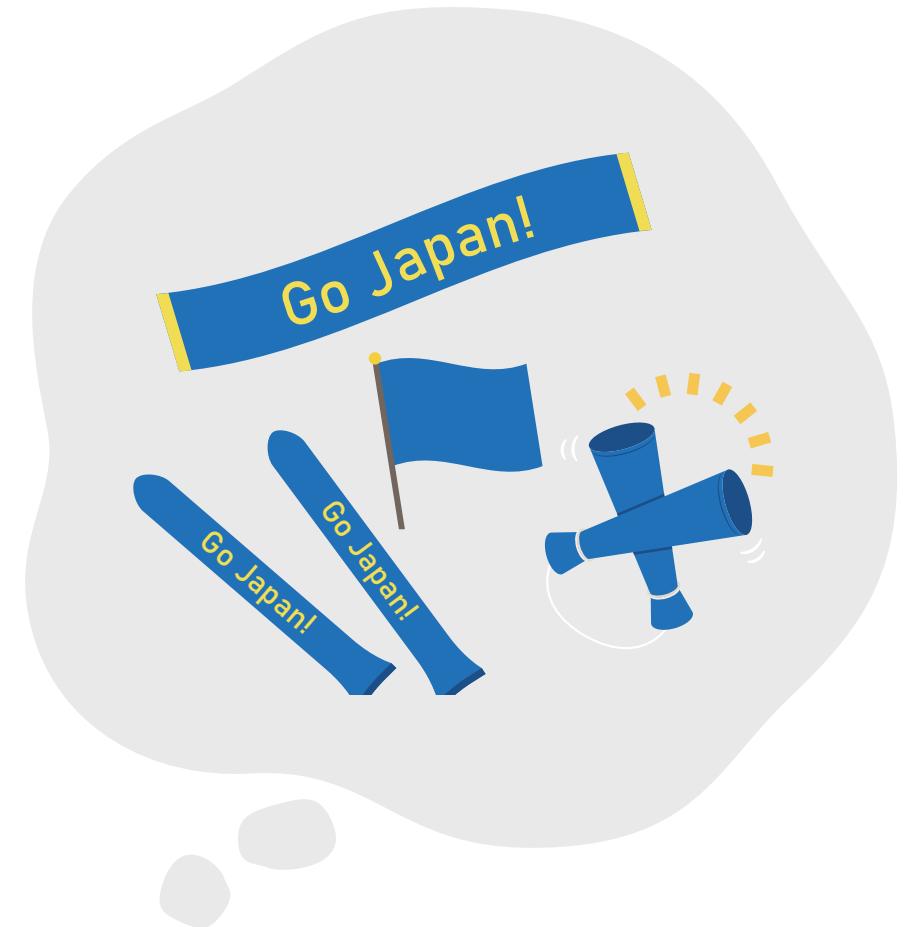
代替製品の検討

(使い捨てからの脱却・素材変更)

使い捨ての応援グッズ・ノベルティを配る場合、繰り返し利用できるグッズやデジタルノベルティに切り替えられるか、また使い捨てにせざるを得ない場合、バイオ素材に代替できるか検討します。

ファンの理解促進

応援グッズ・ノベルティに関し、環境配慮を行っていることをファンに周知し、ファンの理解を促進します。



取組に必要なものは？

応援グッズ・ノベルティの見直しには、グッズの制作・販売会社と使い捨てプラスチックの削減意義についてコミュニケーションをとり、環境に配慮した代替品を準備することが必要です。試合当日の運用上の追加負担は少ないと考えられます。

検討事項	必要なもの・こと	補足
人手	 <ul style="list-style-type: none"> 基本的になし 	<ul style="list-style-type: none"> 運用上は、追加的な人手は発生しないケースが多いと考えられます。
物品・設備	 <ul style="list-style-type: none"> 環境に配慮した応援グッズ・ノベルティ(代替品) 	<ul style="list-style-type: none"> 繰り返し利用できるもの、紙等バイオ素材のもの、デジタルノベルティ等、環境に配慮した代替品を準備します。
コスト	 <ul style="list-style-type: none"> 代替品の制作・調達費用 	<ul style="list-style-type: none"> 環境に配慮された代替品の制作・調達費用がかかります。具体的な費用は、製品によって大きく異なります。 追加的な費用について、スポンサー・協賛企業が負担する方法や、価格転嫁する方法等を検討します。
コミュニケーション	 <ul style="list-style-type: none"> グッズ制作・販売業者との調整 ファンへの啓発 	<ul style="list-style-type: none"> グッズの制作・販売業者に、環境に配慮した代替品への転換を依頼します。 ファンに、応援グッズ・ノベルティにおける環境配慮について周知します。繰り返し利用できる応援グッズは、長く愛用してもらうよう呼びかけます。



事例

ヨネックス



▲以前配布していたポンポンスティック(左)と、現在配布している紙製の応援ボード(右)

ヨネックスは、環境配慮とスポーツの感動を届ける製品づくりを推進しています。その一環として、ヨネックスがサポートする大会では、従来、ポンポンスティックを配布していましたが、2020年からは、紙製の応援ボードへと切り替えました。ハリセン型の応援ボードは、会場で大きな音を鳴らすことができ、応援の熱量をダイレクトに伝えることが可能です。また、ファンが選手への応援メッセージを書き込める仕様になりました。

ヴォレアス北海道



▲紙素材のハリセンと、ハリセンを活用したショッピングバッグ

ヴォレアス北海道は、2021年から「ハリセンリユースプロジェクト」を開始。従来、強度を保つために実施していた、ハリセンのプラスチック加工を排除し、リサイクルやリユースに対応できるようにしました。

ハリセンは会場内で回収され、用途のなくなった新聞紙と組み合わせ、ショッピングバッグとして再利用しています。

ファンや選手にマイボトルの使用を促すことで、プラスチックごみの排出を大幅に削減することが可能です。

近年、マイボトルの利用は広がりつつありますが、給水スポットは十分ではありません。スポーツ会場での給水環境の整備は、社会への波及効果も期待できます。無料でマイボトルに給水できるスポットを紹介するアプリ、mymizuに登録し、利用者の認知を促すこともできます。

「mymizu」ウェブサイト
<https://www.mymizu.co/>



✓ 実施すべきアクション

給水機＆マイボトル洗浄機の設置

給水機や、ボトルを効率的に洗うための洗浄機を設置し、マイボトルを持参したファンの利便性を向上させます。また、給水マップの提示や提供も効果的です。

マイボトル持参の周知

マイボトルの利用による使い捨てプラスチックの削減効果を、公式ウェブサイトや場内モニターで丁寧に説明し、ファンにマイボトル持参を周知します。

飲食出店者への対応依頼

会場内の店頭で飲料を購入する際、飲料をマイボトルに注入できるよう、飲食出店者に対応を依頼することが理想的です。



取組に必要なものは？

マイボトルの促進・給水機の設置を実施する場合、給水機設置・管理のコスト負担と、ファンへの啓発がポイントになります。

また、会場内の店頭で購入した飲料のマイボトルへの注入対応を行う場合には、飲食出店者との調整も重要です。

検討事項	必要なもの・こと	補足
人手	 <ul style="list-style-type: none"> 給水機の点検・管理の担当者 飲食出店者のスタッフ 	<ul style="list-style-type: none"> 給水機の日常点検・定期管理を行う担当者が必要になります。 常に現場で監視する必要はありません。 飲食出店者がファンのマイボトルを使って商品の提供を行う場合、オペレーションが変更となるため、スタッフへのトレーニングが必要です。
物品・設備	 <ul style="list-style-type: none"> 給水機・マイボトル洗浄機 案内ツール 	<ul style="list-style-type: none"> スペース・コスト等の観点で実現可能な場合、マイボトル洗浄機を設置することで、衛生上の不安が解消されます。 必要に応じ、啓発のための案内ツールを設置します。
コスト	 <ul style="list-style-type: none"> 給水機設置・管理費用<small>(レンタルの場合: 週あたり数万円～数十万円/台 購入・設置の場合: 数十万円～/台)</small> マイボトル洗浄機設置・管理費用 	<ul style="list-style-type: none"> 主なコストは給水機、マイボトル洗浄機の設置・管理費用です。 常設ではなく、レンタルやリースを活用し、コストを軽減できる可能性があります。
コミュニケーション	 <ul style="list-style-type: none"> ファンへの啓発 飲食出店者との対話 保健所との連携 	<ul style="list-style-type: none"> プラスチック削減の意義やマイボトル持参の効果、衛生上の配慮について、ファンに啓発する必要があります。 必要に応じ、飲食出店者にマイボトルへの注入対応を依頼します。 この場合、衛生上の問題に関し保健所との連携が必要な場合もあります。



リデュース
Reduceできるだけ減らす
プラスチック製品の使用量を

事例

アルバルク東京



▲サーモス マイボトル推進プロジェクトのブースの様子

アルバルク東京は、社会的責任プロジェクト「ALVARK Will」を推進しており、サーモス(株)と2021年よりSDGsパートナー契約(2025-26シーズンにおいてはゴールドパートナー契約)を締結し、『マイボトル推進プロジェクト』を通じて環境負荷の低減に取り組んでいます。具体的には、マイボトルを試合会場に持参したファンに景品のプレゼントを渡す取組や、店頭でドリンク購入時にマイボトルを利用するファンに割引サービスを行う取組を実施した実績があります。

湘南国際マラソン



▲マイカップ・マイボトルマラソンの給水所の様子

湘南国際マラソンでは、2022年より「マイカップ・マイボトルマラソン」を導入しています。参加者が増加しているにもかかわらず、ごみの排出量は減少しており、使い捨てカップを利用した2019年大会と比べ、2024年大会では約8.7tのごみの削減に成功しました。給水所付近に多量に廃棄されていたカップがなくなり、ランナーからも「走り易くなった」と高評価され、取組が他の大会にも波及しています。



スポーツ会場では、丼容器や皿等、プラスチックの食器が大量に使用されていますが、リユース食器を導入することで大幅にごみを削減することが可能です。リユース食器は、近年、欧州を中心とした海外で導入が進み、日本でも広まりつつあります。「リユース食器ネットワーク」のウェブサイトでは、イベント会場でのリユース食器導入事例を多数確認できます。

✓ 実施すべきアクション

リユース食器提供事業者との協働

協働できるリユース食器提供事業者を見つけます。リユース食器の運用方法(レンタル/購入等)により、チームが構築する運用体制も変わります。

試合当日の運用体制の構築

必要なリユース食器の種類・数量を決めます。「食器の搬入⇒使用⇒回収・返却⇒洗浄」が滞りなく回るよう、社内スタッフ/リユース食器提供事業者/飲食出店者/ファンの役割分担・運用体制を確認します。

飲食出店者・ファンの理解醸成

検討した運用体制が実際に機能するよう、飲食出店者との対話・調整や、ファンへの啓発を行います。

「リユース食器ネットワーク」ウェブサイト
<https://www.reuse-network.jp/>





取組に必要なものは？

リユース食器は、使い捨てプラスチックを大幅に削減することが可能ですが、人手やコスト等の負担が必要になります。

導入コストの負担が可能か、リユース食器の運用体制をステークホルダーと構築できるか、という点がポイントになります。

検討事項	必要なもの・こと	補足
人手	 <ul style="list-style-type: none"> 試合当日の回収・返却支援スタッフ 	<ul style="list-style-type: none"> リユース食器の搬入、使用、回収・返却、洗浄のサイクルの運用にあたり、関係者間の役割分担を明確にし、必要な人手を配置します。 回収・返却の対応は「従来のごみ回収と比べて、2倍以上の人手が必要となる」と認識しているチームもあります。
物品・設備	 <ul style="list-style-type: none"> リユース食器 返却用ボックス・ステーション等 メニュー用の写真 	<ul style="list-style-type: none"> リユース食器の調達と、返却用ステーション等の設置が必要です。 返却用ボックス・ステーションは、利用者の利便性を配慮し、複数カ所に設置するケースもあります。 必要に応じ、リユース食器を使用したメニュー用写真を、撮影・準備します。
コスト	 <ul style="list-style-type: none"> リユース食器の利用費用（数十円/個） 返却用ボックス・ステーション等の設置費用 	<ul style="list-style-type: none"> リユース食器の利用料は数十円/個のケースがあります。 返却用ボックス・ステーションに、食器返却の際に預託金を受け取るデポジット返却対応の自動回収機を導入する場合は、費用が高くなる可能性があります。
コミュニケーション	 <ul style="list-style-type: none"> 飲食出店者との対話 ファンへの啓発 保健所との連携 	<ul style="list-style-type: none"> 飲食出店者がオペレーション上、食器の変更に対応可能かどうかを確認・調整します。費用負担についても、相談します。 ファンには、リユース食器を廃棄せずに返却するよう、周知を行います。 保健所への届け出も必要となるので、早い段階で相談を開始します。



事例

ヴァンフォーレ甲府



▲スポンサー等の協力にて実現

ヴァンフォーレ甲府は、2004年からリユース食器を20年以上使用し、2024シーズンまでの利用累計個数は112万個に達しました。スタジアムの飲食店で商品を購入する際に、デポジット（預託金）を支払い、食器返却の際に預託金を受け取るデポジットシステムで運用しています。地域のスポンサーやNPO法人等多くのステークホルダーの協力を得て推進し、取組はファンにも浸透しています。

FC東京



▲リユース容器の効果検証トライアルの実施

FC東京では、使い捨てプラスチックの削減のため、リユース容器を活用し飲食を提供する効果検証を実施しています。味の素スタジアムに出店する13店舗の飲食店の協力を得て、飲食の一部をリユース食器にて提供しました。また、利用者にごみの分別と食器の返却を促し、アンケートへの協力も依頼しています。導入の前に、実証実験を行うことでより有効な計画を作ることが可能になります。



スポーツ会場で使われる食器等を紙、バガス[※]、木(竹等)等のバイオ素材に切り替えることで、プラスチック使用量を削減できます。コストは上昇する可能性が高い一方、「使い捨て」できるため、運用や衛生面の観点では、導入ハードルが比較的低いと言えます。現在の使い捨てプラスチック食器について素材代替が可能か情報を集め、コスト等の観点から、チームに最適な素材・製品を選定することが重要です。

✓ 実施すべきアクション

ステークホルダーとの協働

素材の切替えを実施したい意向を飲食出店者に伝え、費用負担のあり方、代替品の調達者、具体的な素材の選定について、話し合います。

素材・製品、調達先の選定・調達

飲食出店者との話し合いも踏まえ、切替えの素材・製品を選定し、調達します。まずは限定期的な「試行」として実施し、運用上の課題を把握することも有効です。

分別回収方法の確立

素材に合わせた分別・回収のしくみを整備します。



※バガス:サトウキビの搾りかす由来の環境配慮型素材



取組に必要なものは？

プラスチックをバイオ素材に切り替える場合、食器の調達コストが上昇する場合が多く、飲食出店者とともにコスト負担のあり方を相談することがポイントとなります。

検討事項	必要なもの・こと	補足
人手	 <ul style="list-style-type: none"> 基本的に何なし 	<ul style="list-style-type: none"> 基本的には人員増加は不要ですが、飲食出店者のオペレーションが変化するため、導入初期は従来よりも提供に時間要する可能性があります。
物品・設備	 <ul style="list-style-type: none"> バイオ素材の代替食器 メニュー用の写真 	<ul style="list-style-type: none"> 用途やコスト等を考慮し、どのような素材（紙、バガス、木等）を採用するか、検討する必要があります。 必要に応じ、代替容器を使用したメニュー用写真を、撮影・準備します。
コスト	 <ul style="list-style-type: none"> バイオ素材の代替食器の調達費用 (十円～数十円/個の追加費用) 	<ul style="list-style-type: none"> バイオ素材への変更により、一般的には、十～数十円/個の追加費用が発生します。
コミュニケーション	 <ul style="list-style-type: none"> 飲食出店者との対話 ファンへの啓発 	<ul style="list-style-type: none"> 飲食出店者に、プラスチックから代替素材に変更する理由を周知し、チーム・飲食出店者のどちらが費用を負担するのかを調整する必要があります。 環境配慮のためバイオ素材を採用していることを、ファンに啓発します。

リプレイス
Replace

切り替える

より環境負荷の低い素材に

事例

鹿島アントラーズ



▲茨城県立カシマサッカースタジアムで提供される紙製カップ

鹿島アントラーズは、メルカリスタジアムにおけるプラスチック使用量と廃棄物の削減を目的とし、クラブパートナーである東洋製罐グループホールディングス(株)と連携し、場内飲食売店全25店舗で使用するカップ素材を紙製に変更しました。また、使用済みのドリンクカップを洗浄できる機械「Re-CUP WASHER」と専用の回収ボックスもスタジアム内に設置。回収されたカップは、さまざまな紙製品にリサイクルしています。この取組は資源循環と持続可能な社会の実現を目指すものです。

鈴鹿サーキット



▲飲食店で使用される植物由来の容器・カトラリー

ホンダモビリティランドは、FIA(国際自動車連盟)の環境認証制度で最高ランク3スターを、鈴鹿サーキットで獲得しました。持続可能なモータースポーツの開催・運営を行うため、廃棄物に関する取組として、使い捨てプラスチックの提供を廃止し、全飲食店の使い捨ての容器やカトラリーに、植物由来の素材を用いています。



スポーツイベントで廃棄されるごみを分別・再資源化することで、環境負荷を軽減できます。燃えるごみ、プラスチック、ペットボトルなど、複数のごみ箱をセットした「ごみステーション」を設置し、ファンに正しい分別を促すことが重要です。ごみの分別方法は、チームや自治体により異なるため、ファンに対する丁寧な案内が欠かせません。

✓ 実施すべきアクション

ごみステーションの設置

観客にとって利便性のよい場所に設置します。大規模な会場では、必要に応じて複数カ所に設置します。

再資源化システムの構築と分別方法の見直し

廃棄物関連事業者等と連携体制を構築し、どのように分別し、どのように再資源化するのかを検討します。

ファンの理解促進

ごみステーションマップ等を作り、観客に分別の周知を行います。分別と再資源化の重要性について、啓発することも効果的です。





取組に必要なものは？

ごみステーションを設置するだけでなく、分別を促す仕組みづくりが重要であり、人手が必要なケースもあります。

分別活動にファンを巻き込み、ファン育成やコミュニティづくりにつなげることで、取組によるメリットを増やすことができます。

検討事項	必要なもの・こと	補足
人手	 <ul style="list-style-type: none"> ごみ分別支援のスタッフ 	<ul style="list-style-type: none"> 観客数等を考慮の上、スタッフの配置人数を決めます。
物品・設備	 <ul style="list-style-type: none"> ごみステーション設備 分別案内表示 	<ul style="list-style-type: none"> ごみの発生場所(飲食エリア、売店、座席エリア等)を分析した上で、ごみステーションを設置します。 ごみ分別の方法がわかるよう、わかりやすい案内表示を用意します。
コスト	 <ul style="list-style-type: none"> ごみステーション設置費用 再資源化費用 	<ul style="list-style-type: none"> ごみステーションの設置費用が必須となります。 再資源化の費用が必要になりますが、トータルでの廃棄物の処理費用が削減できる可能性もあります。
コミュニケーション	 <ul style="list-style-type: none"> ファンに対するごみ分別への協力依頼 	<ul style="list-style-type: none"> ファンにごみ分別に協力してもらえるよう、分別の意義やリサイクルの現状について、伝える工夫をします。 ごみステーションでは、ファンが適切に分別できるよう、案内ツールの設置やスタッフによる案内を行います。



事例

浦安 D-Rocks



▲ごみ分別の啓発エリアの「サステナブルステーション」

浦安 D-Rocks は、試合会場にごみ分別の啓発エリア「サステナブルステーション」を開設しています。ファンへの普及活動には、選手も参加し、ごみ分別を行う背景・目的や、選手自身が感じている温暖化の影響について伝える等、積極的にコミュニケーションを取っています。また、分別に協力したファンには、「サスってる」ステッカーを配布しています。

阪神タイガース



▲ビール用プラスチックカップの循環型リサイクル

2012年から、球場で使用後のビール用プラスチックカップを帝人フロンティア(株)と共同で回収し、球場イベントで配布するノベルティ等にリサイクルする取組を行っています。回収専用ステーションを球場に複数設置し、2022年には回収率約35% (約10トン) を達成、それ以降も回収率は伸び続けています。また、(株)シモジマと帝人フロンティア(株)と共に、プラスチックカップの再生ペット材の一部を使用したリサイクルごみ袋を開発し、2022年のシーズンより球場で使用しています。

使い捨てプラスチックの削減はチームに何をもたらすの？

使い捨てプラスチック削減の取組は、サステナブルな社会への貢献であり、チームが社会的責任を全うする上で重要なアクションです。また、廃棄物の処理コストの削減、スポンサーとファンとの関係強化等、チームに複数のメリットをもたらします。

1 社会的責任



廃棄物・CO₂排出の削減への貢献

スポーツイベントで発生する廃棄物の中で、使い捨てプラスチックは大きな割合を占めています。使い捨てプラスチックそのものを減らせば、廃棄物・CO₂排出の削減に繋がります。また、スポーツ界の率先した取組は、ファンをはじめとするステークホルダーの責任ある消費を後押しする観点でも、大きな意義があります。

2 チームにとってのメリット

廃棄物処理コストの削減



使い捨てプラスチック削減は、チームが、廃棄物を引き渡す処理事業者に支払う処理コストの削減に繋がります。

スポンサーとの関係強化



サステナビリティの意識の広がりにより、多くの企業が、パートナーシップを組むスポーツチームに、適切な環境配慮を求めています。環境問題に積極的に取り組むことで、スポンサー獲得・スポンサーエンゲージメント強化に繋がります。

ファンとの関係強化



使い捨てプラスチック削減に係るキャンペーンやアクションにファンを巻き込むことで、チームの価値観への共感の広がりやエンゲージメントの向上が期待され、ファンにチームをより身近に感じてもらえるようになります。

使い捨てプラスチック削減の取組一覧(概要)

スポーツにおける使い捨てプラスチック削減には、製品別に以下のような方法があります。

p.33-35にて、それぞれの取組を紹介しています。

カテゴリ	製品	リフューズ Refuse	リデュース Reduce	リユース Reuse	リプレイス Replace	
食べ物 関連 p.33	食器(皿類・丼類等) 食器(蓋) カトラリー		<p>●蓋の提供停止 ●カトラリーの提供停止</p>	<p>●マイ食器・ マイカトラリーの促進 ●カトラリーの有料化</p>	<p>●リユース食器の使用 (蓋・カトラリー含む)</p>	<p>●バイオ素材の食器・ 蓋・カトラリーへの 切替え</p>
飲み物 関連 p.34	カップ ボトル ストロー		<p>●ペットボトルの 販売停止 ●ストローの提供停止</p>	<p>●マイボトルの促進 ●ストローの有料化</p>	<p>●リユースカップの使用</p>	<p>●バイオ素材のカップ・ ストローへの切替え</p>
ノベルティ・ 応援グッズ関連 p.35	応援グッズ ノベルティ		<p>●使い捨てプラスチック 製のグッズ・ ノベルティの提供 停止</p>	<p>●グッズ使用数・ ノベルティ配布数の 抑制</p>	<p>●繰り返し使える グッズの提供</p>	<p>●再生材やバイオ素材* のグッズ・ノベルティ への切替え</p>
袋	レジ袋・ プラスチック袋		<p>●レジ袋・ プラスチック袋の 提供停止</p>	<p>●マイバッグの促進</p>	<p>●マイバッグの促進</p>	<p>●再生材やバイオ素材 のレジ袋・プラス チック袋への切替え</p>

*再生材はプラスチックごみを原料として新たに作られたプラスチック、バイオ素材は紙、バガス、木(竹等)等を指します。

使い捨てプラスチック削減の取組には、ここまでご紹介したものを含め、様々な方法があります。

リユース食器の使用促進



使い捨て食器を、繰り返し使えるリユース食器に替え、回収洗浄し再利用します。

リユース
Reuse
食器

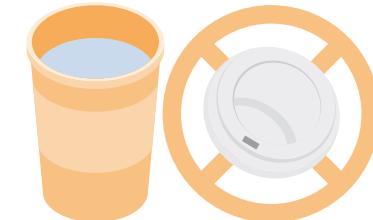
マイカトラリーの持参促進



マイカトラリー持参をファンに呼びかけ、使い捨てのカトラリーの提供量を削減します。

カトラリー
Reduce
リデュース

食器の蓋の提供停止



蓋がなくても飲食が安全かつ快適にできると想定される場合、蓋の提供を停止します。

リユース
Refuse
食器(蓋)

食器のバイオ素材への切替え



使い捨て食器を、紙やバガス等のバイオ素材の食器に替えます。

リプレイス
Replace
食器

バイオ素材の蓋の使用



皿の切替えが難しい場合でも、蓋のみをバイオ素材に変えるという方法もあります。

リプレイス
Replace
食器(蓋)

バイオ素材のカトラリーの使用



カトラリーを、木、紙、バイオマスプラスチック等、代替素材のものに変えます。

リプレイス
Replace
カトラリー

使い捨てプラスチック削減の取組一覧



使い捨てプラスチック削減の取組には、ここまでご紹介したものを含め、様々な方法があります。

リユースカップの導入



使い捨てカップを繰り返し使えるカップに替え、回収洗浄し再利用します。

リユース
Reuse

マイボトルの促進と給水機の設置



ファンにマイボトルの持参を促し、給水機を設置して、ペットボトルやプラカップの使用量を減らします。

リデュース
Reduce

ペットボトルの販売禁止



会場でのペットボトル販売を禁止し、使い捨てプラスチック製品の消費を直接抑制します。

リフューズ
Refuse

ストローの提供停止



ストローの提供を停止し、直接カップ等から飲むように推奨します。

リフューズ
Refuse

バイオ素材のカップ・ストローの利用



使い捨てのカップやストローの素材を、紙、バイオプラスチック等に切り替えます。

リプレイス
Replace

ペットボトルの水平リサイクル



使用済みペットボトルを分別回収し、再びペットボトルに再生することで資源循環を促進します。

リサイクル
Recycle

使い捨てプラスチック削減の取組一覧



使い捨てプラスチック削減の取組には、ここまでご紹介したものを含め、様々な方法があります。

グッズの提供停止



応援グッズ・ノベルティ、スポンサー提供の販促物について期待される盛り上げ効果が十分でない場合には、提供停止することも一つの手です。

グッズ

リユース
Refuse

グッズの提供数の制限



応援グッズ・ノベルティ、スポンサー提供の販促物の過剰提供を避け、1人1個に限定する、希望者のみに配布する等の対応をします。

グッズ

リデュース
Reduce

何度も使えるグッズの導入



応援グッズをファンに持ち帰ってもらい、次の試合の時にも再度持ってきてもらえるようにします。

グッズ

リユース
Reuse

再生材やバイオ素材の グッズへの切替え



応援グッズやノベルティ、スポンサー提供の販促物の素材を、再生材やバイオ素材に切り替えます。

グッズ

リプレイス
Replace

実践編

アクションへ
使い捨てプラスチック削減の実践

使い捨てプラスチック削減の実践的ステップ

実践編では、初めて削減に挑むスポーツ団体を想定し、具体的なアクションの詳細を紹介します。スポーツ団体による使い捨てプラスチック削減は、右記のステップに沿って進めることができます。STEP1～5のサイクルを繰り返すことで取組をレベルアップさせることができます。取組の順序はあくまでも目安ですので、各チームの実情に合わせてご活用ください。



現状を把握する

まずは試合会場でどのような使い捨てプラスチックが使用・廃棄されているか、把握しましょう。

✓ 実施すべきアクション

ごみの廃棄量の確認

試合1回あたりに廃棄されるごみの全体量や、使い捨てプラスチックごみの廃棄量を確認します。

使い捨てプラスチックの種類の確認

試合当日のごみの内訳や、飲食・物販店舗の提供物を確認し、どのような種類の使い捨てプラスチックが多く使用・廃棄されているか、確認します。

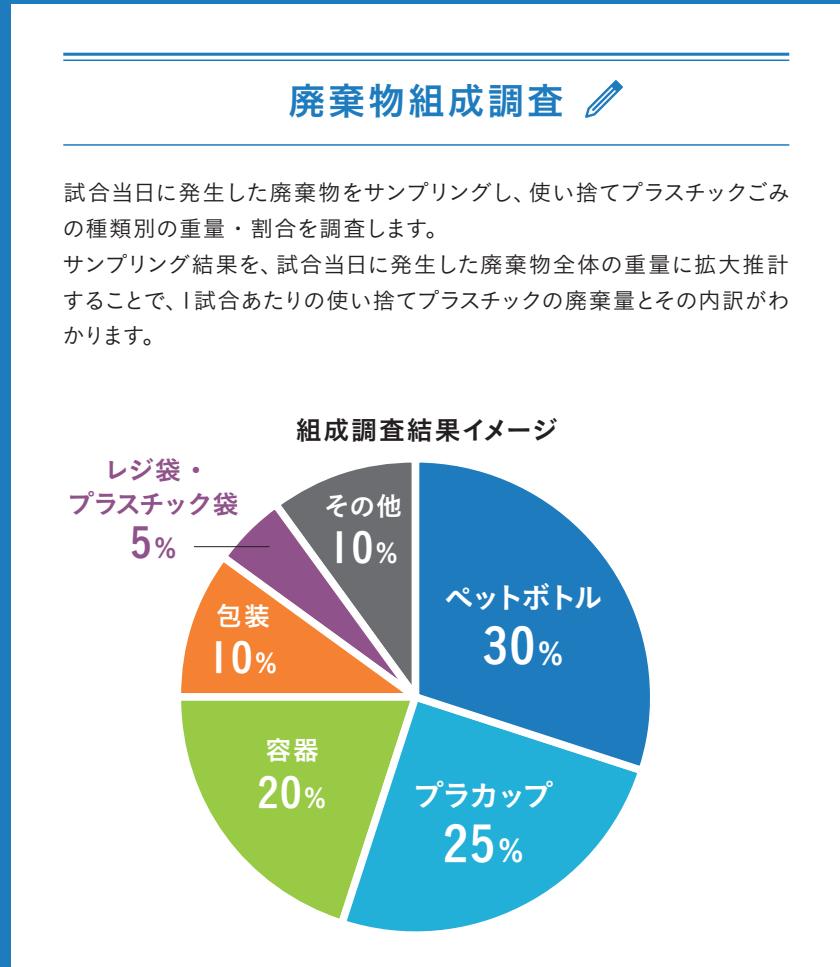
ごみ分別・リサイクル状況の確認

試合会場に設置しているごみ箱の分別区分や、ごみの引き渡し先を確認します。使い捨てプラスチックがどのごみ区分に分別されているか、リサイクルされているか、把握します。



チームの試合で、どのような使い捨てプラスチックが使用・廃棄されているかを確認し、取組の対象とすべき製品を明らかにします。一般的にはp.8に示す使い捨てプラスチックが多く見られますが、ぜひ実際の現場の状況を確認しましょう。

\ 使い捨てプラスチックの **廃棄量** が知りたい！ /



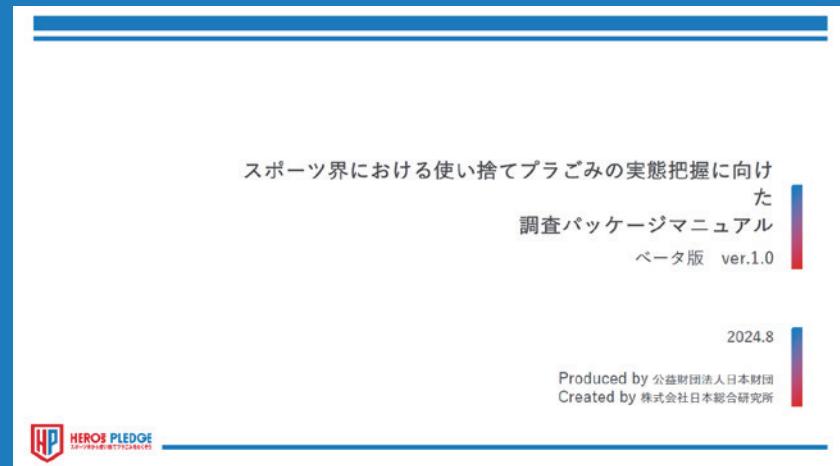
\ 使い捨てプラスチックの **使用量** が知りたい！ /

アンケート調査

観客や選手・スタッフが外部から持ち込む使い捨てプラスチックの数量や、飲食・物販店舗で販売・提供される数量を、使い捨てプラスチックの製品別にアンケート形式で調べ、使用量を把握することもできます。アンケート調査結果を、使い捨てプラスチック製品ごとの重量、対象者の総数に基づき拡大推計することで、1試合あたりの使い捨てプラスチックの使用量とその内訳がわかります。

アンケート調査項目イメージ

対象者	問い合わせ
観客 選手 スタッフ	<ul style="list-style-type: none"> 外部から持ち込んだ使い捨てプラスチックの種類と数 それらの処分方法(自宅に持ち帰る/会場で捨てる)
施設関係者	<ul style="list-style-type: none"> 販売・提供した使い捨てプラスチックの種類(ペットボトル、プラカップ、食品容器、カトラリー、ストロー等)と数 紙等、使い捨てプラスチックに代わる素材の導入状況



「スポーツ界における使い捨てプラスチックの実態把握に向けた調査パッケージマニュアル」では、廃棄物組成調査の具体的な実施手順を複数パターン紹介しています。使い捨てプラスチックの総量のみを把握する調査や、使い捨てプラスチックの種類別内訳量まで把握する調査手法等が掲載されており、目的やかけられる労力に応じて、調査方法を選択することができます。



「分別マニュアル」では、プラスチックを含むごみ全般を対象として、分別方法や、分別にあたっての注意事項等をまとめています。

組織内の体制を整える

使い捨てプラスチック削減の取組は、経営層・スタッフ・選手が意義を理解し、組織全体が一丸となって進めることができます。環境問題を組織の経営課題として捉え、予算の確保や役割分担の明確化を図ることで、推進体制をより強固にすることができます。

✓ 実施すべきアクション

使い捨てプラスチック削減方針の検討

使い捨てプラスチック削減の必要性(なぜ取り組むのか)や目標(いつまでにどれだけ減らすのか)を明確にします。組織のサステナビリティ戦略と合わせて検討できると理想的です。

実行体制の整理

使い捨てプラスチック削減にあたる、組織内の役割分担を明らかにすることが重要です。具体的には、飲食出店者との調整やスポンサーとの連携等、誰が何を担当すべきかを明確にします。また、部門横断で議論するためのサステナビリティ委員会や環境委員会を設置します。

予算の確保

使い捨てプラスチック削減のための予算を確保し、具体的な取組を導入するための基盤を整えます。予算については、STEP4の「組織外のステークホルダーと連携する」に記載している、スポンサー連携と合わせて検討することも一案です。



使い捨てプラスチック削減の取組を実効的に進めるには、組織内の対話と連携が欠かせません。

経営層、担当者・スタッフ、そして選手が納得して取り組めるような対話を進め、チームとしての推進力を生みだしましょう。



経営層

担当者・スタッフ

選手

経営層との対話のコツ

サステナビリティを 経営課題化しよう

- スポーツ界でも高まるサステナビリティ潮流について伝え、**使い捨てプラスチックの削減を含むサステナビリティ対応は、チームのブランド価値向上の観点でも重要**であることを共有します。
- **経営層からのトップメッセージとして、サステナビリティを重視する旨を発信**することが重要です。

担当者・スタッフ連携のコツ

同じ方向を目指し、取組を 日常業務に落とし込もう

- 「なぜプラスチック削減するのか」を共有し、同じ目的意識で取組を進めるための基盤をつくります。
- 具体施策の導入については、担当者を中心に、関係部署が互いに必要な情報を共有しながら企画・運営ができるように、連携体制を整えます。スタッフの意識醸成には、組織内の勉強会の実施も効果的です。

選手との対話のコツ

選手ならではの 社会的影響力に訴えよう

- 選手が感じている地球温暖化の影響等について問い合わせ、選手自身の環境意識を高めます。
- 選手がファンや社会に影響を与える存在であることを強調します。
- 選手が**自らの行動や考えを発信**できる具体的な機会(イベントやSNS)を設計し、巻き込みます。

取組を検討する

STEP3では、現状分析と組織内の体制・リソースを踏まえ、チームに合った削減の取組を選定します。

基礎編で記載した **6R + A** の考え方や、チームの使い捨てプラスチック削減方針に基づき、何から始めるか、決定しましょう。

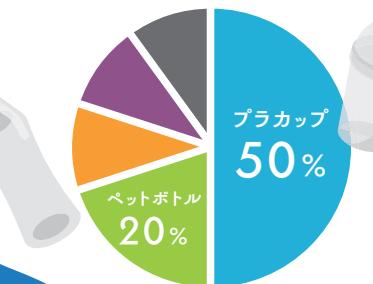
✓ 実施すべきアクション

削減対象の検討

STEP1の現状把握の結果に基づき、削減対象とすべき製品を検討します。全体の中で大きな割合を占めるプラスチック製品を対象にすることで、削減効果を高められます。複数の製品を対象にしてもよいでしょう。



一番多いのはプラカップ、二番目はペットボトルだな…



取組の比較・選定

「削減効果」「実施可能性」といった観点から、チームが立てた方針に合わせて、チームに適した取組を比較・選定します。この段階から、組織外の関係者と協議できると理想的です(STEP4を参照)。

プラカップを
大幅に削減するには
どんな取組が可能だろう？



ねらい・目標・KPIの検討

取組の導入に向けて、そのねらいをわかりやすい言葉でまとめておきましょう。チームが立てた方針に合わせて、具体的な目標・KPIも検討できるようであれば、より実行力を高めることができます。



取組選定の観点：削減効果と実施可能性

取組の選定にあたっては、「削減効果」と「実施可能性」のバランスがポイントになります。

「削減効果」の観点については、基礎編のp.11で紹介した「削減方法を検討するフローチャート」をご参照ください。

！ 効果的な問い合わせ

観点

削減効果

- どの程度、使い捨てプラスチックの発生量を削減できるか？

実施可能性（負担）

- どのくらい追加の人手が必要か？
- どのような物品・設備が必要か？
- どのくらい追加のコストが必要か？
- どのくらい関係者とのコミュニケーションが大変か（ファンやスポンサーの賛同が得られるか）？

先進チームが、削減の負担を乗り換えた方法は？

指定包材を一括購入してコストを抑制した事例



チーム A

使い捨てプラスチックを削減したいと思い、バイオ素材の包材の導入を決めました。コストが課題でしたが、指定包材として大量に一括購入し、コストを抑制しました。

取組のパートナーとしてスポンサーを巻き込んだ事例



チーム B

リサイクルに関する先進的な取組を実施するには、取組と一緒に実施するパートナーの存在が必須でした。幸い、リサイクル技術を保有するスポンサーがいて彼らと対話する中で、共同で取組を行えることになりました。

組織外のステークホルダーと連携する

削減施策の実行には、組織外のステークホルダーとの連携が必要不可欠です。関係者全員のチームプレーで削減を実現しましょう。

✓ 実施すべきアクション

主要な組織外のステークホルダーの特定

STEP3で選定した取組により、関係するステークホルダーは異なるため、誰と、何を連携すべきなのか、情報を整理します。

背景の共有と役割分担

使い捨てプラスチック削減に取り組む背景・理由、実施する取組、組織外ステークホルダーに期待する役割について共有・議論します。

連携の仕組み化

取組を継続できるよう、関係者の定期ミーティングの場を設ける等、仕組み化を図ります。



各ステークホルダーに使い捨てプラスチック削減の意義を理解してもらい、連携体制を構築することが重要です。

ステークホルダー	コミュニケーションの目的	コミュニケーションのポイント
飲食出店者	<p>● 削減施策の現場を担う重要なパートナーとして、手間やコスト等の具体的な課題を共有し、解決を図ること。</p>	<p>● 現場での課題を把握した上で、チームとしての方針を固めて周知します。</p> <p>● コストや手間の増加が見込まれる場合は、チームとしてどのようなサポート策ができるかを検討、提示します(例:バイオ素材の一括調達等)。</p> <p>● 削減への取組が、出店者の魅力向上につながるよう、ファンへの啓発時に留意します。</p>
ファン	<p>● 使い捨てプラスチック削減の意義を伝え、前向きに取組に参加できる状況をつくりだすこと。</p> <p>● チームを誇りに感じ、応援し続けたいと思ってもらうこと。</p>	<p>● 案内表示やアナウンスのほか、ウェブサイトやSNS等を通じて意義や具体的な方法をわかりやすく伝えます。</p> <p>● 選手やマスコット等、共感を呼ぶ発信者を活用するとよいでしょう。</p> <p>● ファンが「取組にもっと参加したい」と感じられる工夫・インセンティブの設計ができれば理想的です。</p>
スタジアム	<p>● 運営面・安全面の観点から連携することで、取組を問題なく実行すること。</p>	<p>● 取組を実行するにあたり、施設管理のオペレーションが変更になる場合には伝達し、問題がないか確認します。</p> <p>● 取組が、ごみ削減やクリーンなスタジアム等の魅力の向上につながることを伝えられると、協力を得られる可能性が高まります。</p>
親会社	<p>● 使い捨てプラスチック削減方針と、親会社の経営方針・サステナビリティ戦略との整合性を示し、取組の継続性を確保できるように、理解と支持を得ること。</p>	<p>● チームの取組・目標と、親会社の方針・サステナビリティ戦略の整合性を取り、グループの一員として貢献します。</p> <p>● スポーツチームが社会貢献に取り組むことによる社会への影響力や、ブランドイメージ向上効果についても、伝えます。</p> <p>● 取組の成果やファンの反応等について、定期的にフィードバックします。</p>
スポンサー企業	<p>● 使い捨てプラスチック削減を、スポンサーの社会的価値向上・ブランドイメージ向上と結び付け、社会貢献に向けたパートナー関係を築くこと。</p>	<p>● スポンサー企業の経営方針や重点領域と、使い捨てプラスチックの削減施策をマッチさせます。</p> <p>● ファン参加型の取組を企画できると、スポンサー企業も、社会的価値をファンに発信できている実感を持ちやすいでしょう。</p>

取組を導入・評価する

STEP5では、実際に取組を導入します。成果を測り、発信につなげることで、活動を継続して育てます。

✓ 実施すべきアクション

取組の導入

STEP3で選定した取組を、実際に試合に導入します。まずは一試合で試行することも、一つの方法です。

取組の評価

シーズン終了時や年度末等、適切なタイミングで、取組の成果を振り返ったうえで、組織全体の方針への影響度を見直します。施策効果を表す定量的なデータと、現場で生じていた定性的な課題の情報の両方を把握することが望ましいでしょう。

ファンや社会に対する情報発信

取組の内容や成果を、ファンや社会に向けて情報発信します。ウェブサイトやSNSを効果的に活用します。



取組の評価のポイント

取組の評価には様々な方法がありますが、代表的な方法として、以下のようなアイディアがあります。

評価結果を踏まえ、取組を継続するうえでの課題や改善方針を検討できるとよいでしょう。

定量評価の例

指標 (KPI)	測定方法	結果の表し方 (例)
削減できた使い捨てプラスチックの量	代替品の導入量から削減量を推計	ペットボトル500本分
協力出店者割合	全飲食出店者数のうち、取組に参加した出店者数の割合を算出	キッチンカー 80% 常設売店 100%
使い捨てプラスチックの使用量の削減率	アンケート調査 (p.39 参照) により、取組前後の使用量を比較	前シーズン比▲30%
使い捨てプラスチックの廃棄量の削減率	廃棄物組成調査 (p.39 参照) により、取組前後の廃棄量を比較	前シーズン比▲30%
廃棄物のリサイクル率	清掃業者・処理業者の記録から、廃棄物総量に対するリサイクルされた資源量の割合を算出	70%
ファンの意識・行動変容率	ファンへの意識・行動アンケート調査	リユース食器の利用意向のあるファンの割合 80% リユース食器の利用経験のあるファンの割合 60%

定性評価の例

観点	質問例	回収方法
ファンの認識	「取組について共感できるか」 「取組により困った点はあるか」	アンケート/SNS分析
飲食出店者やスタッフの運用性	「運用上の課題を感じたか」 「取組のメリットを感じたか」	アンケート / ヒアリング

アルバルク東京(バスケットボール)の使い捨てプラスチック削減の歩み

アルバルク東京は、SDGsの達成に貢献する目的で、社会的責任プロジェクト「ALVARK Will」を立ち上げました。マイボトル推進プロジェクトに長年取り組んでいる他、ドリンク容器リユースサービスの実証実験をはじめとする、複数のチャレンジに取り組んでいます。

アルバルク東京から学びたいポイント

1 「ALVARK Will」の提唱

社会的責任プロジェクト「ALVARK Will」を立ち上げ、注力する社会課題領域の一つに「環境」を位置付けました。これにより、社内体制を確立するとともに、パートナー連携を推進しました。

2 施策の効果を定量的に評価

一試合あたりのペットボトル平均廃棄量を、「マイボトル推進」プロジェクトの開始前後で比較し、施策によるごみの削減効果を定量的に評価しました。

3 既存施策の継続と、新規施策への展開

SDGsパートナーであるサーモス(株)とは、「マイボトル推進」プロジェクトを継続するだけでなく、新規施策としてドリンク容器リユースサービスの実証実験も開始しました。

2021-
2022
シーズン

- 社会的責任プロジェクト「ALVARK Will」を立ち上げ
- 「マイボトル推進」プロジェクトを開始
- サーモス(株)とSDGsパートナー締結
- 一人あたり前年比25%のペットボトルごみを削減

2022-
2023
シーズン

- ホームゲーム全試合で、マイボトル利用を呼びかけ
- 大幅な削減を実現、一試合あたり平均ペットボトルごみの量が前年比57%

2023-
2024
シーズン

- マイボトル利用呼びかけを継続
- 新たにドリンク容器リユースサービスの実証実験を開始

2024-
2025
シーズン

- マイボトル利用呼びかけを継続
- 「東京で、共に生きる人たちと幸せに暮らしていく環境を作っていくたい」という思いから、「3つのWill:健康・成長・環境」を設定

浦安 D-Rocks(ラグビー)の使い捨てプラスチック削減の歩み

浦安 D-Rocksは、持続可能な社会の実現に向けた取組を推進するために、「サステナビリティ宣言」を表明しています。

重点テーマの一つとして「循環経済」を設定し、選手を巻き込んだごみ分別の啓発活動や、スタジアムに出店するキッチンカーで提供される食器の紙への代替、D-Rocks Sustainability Hubを通じた情報発信等に取り組んでいます。

浦安 D-Rocksから学びたいポイント

1 「サステナビリティ宣言」の表明

重点テーマの一つとして「循環経済」を設定し、「使い捨て製品の利用を80%削減する」ことを目標として掲げました。また、CSO (Chief Sustainability Officer) を任命し、チームとしてのコミットメントを担保しました。

2 選手の巻き込み

選手向けにサステナビリティのセミナーを開催し、理解醸成に繋げました。ごみ分別の啓発エリアでは、選手自らファンとコミュニケーションを取り、ごみ分別への協力を呼び掛けている。選手自身が、追い込み練習が難しくなってきている等、地球温暖化の影響を身近に感じており、ごみ分別の必要性について、説得力のある呼び掛けが実現しています。

2023



2024



2025

- 持続可能な社会の実現に向け、サステナビリティ宣言、重点テーマの一つ「循環経済」を設定。そのターゲットの一つが「使い捨て製品の利用を80%削減する」

- スポーツチームをハブとして、ステークホルダーとサステナビリティの共創をさらに進めるために、One for Society, Society for Oneを掲げ、D-Rocks Sustainability Hubを創設
- HEROs PLEDGE一斉アクションに参画し、エコストーション設置による啓発活動を実施

- 令和7年度気候変動アクション環境大臣表彰「普及・促進部門 緩和分野」大賞を受賞



HEROs PLEDGEに参加しよう

日本財団は、地球規模で拡大する海洋ごみ問題や気候変動に対応するため、使い捨てプラスチックごみをなくしていくことを目的に、スポーツ界横断プロジェクト「HEROs PLEDGE」を2024年3月に始動しました。アスリート・スポーツ団体と共に社会課題解決の輪を広げ、スポーツシーンにおける使い捨てプラスチック削減を推進しています。プロジェクト参加をPLEDGE(宣言)したアスリート・スポーツ団体と共に、環境問題に関する勉強会や視察会、関連イベント等を実施し、活動の輪をスポーツ・アスリートからファンへと広げ、30,439PLEDGE(2025年10月時点)に達しました。スポーツの力で、環境アクションを社会全体へ広げていきましょう。

OUR VISION

スポーツ興行における使い捨てプラスチックごみゼロを目指します。スポーツ界で起きたムーブメントを社会に波及させ、将来的には日本全体の使い捨てプラスチックごみ削減に貢献します。

OUR MISSION

ファンや、社会のロールモデルとなるために、アスリート・スポーツ団体が中心となって取組を推進します。賛同してくれるアスリートやスポーツ団体、ファン、企業を増やし、競技や団体の垣根を超えて、スポーツ界全体で使い捨てプラスチックごみゼロを目指します。

使い捨てプラスチック削減を、当たり前に

>>> 使い捨てプラスチックが関わる環境問題は、既に私たちの生活やスポーツに影響を与え始めています。未来のこどもたちの生活を守るため、スポーツを楽しめる未来をつくるため、スポーツ界における環境問題への対応を「当たり前」にすることを目指して、まずは使い捨てプラスチック削減のアクションについて、チームで話し合ってみませんか。



参考

※ウェブサイトの閲覧日はいずれも2025年12月3日

ナショナル ジオグラフィック編,『ナショナル ジオグラフィック 別冊:脱プラスチック データで見る課題と解決策』, 2021年5月31日, 日経ナショナルジオグラフィック

公益財団法人 日本財団, 日本財団ジャーナル:【増え続ける海洋ごみ】今さら聞けない海洋ごみ問題。私たちにできること, 2022年8月25日, https://www.nippon-foundation.or.jp/journal/2020/43293/ocean_pollution/

経済産業省資源エネルギー庁, 令和5年度エネルギーに関する年次報告(エネルギー白書2024), 2024年7月23日, <https://www.enecho.meti.go.jp/about/whitepaper/2024/html/2-2-2.html>

Ellen MacArthur Foundation and McKinsey & Company, The New Plastics Economy: Rethinking the future of plastics, 2016, <https://www.ellenmacarthurfoundation.org/the-new-plastics-economy-rethinking-the-future-of-plastics>

阪神甲子園球場, 2部制を一部日程で導入します, 2024年7月11日, <https://koshien.hanshin.co.jp/highschool/summer2024/infomation.html>

World Meteorological Organization, FIS and WMO partnership highlights the harmful effects of climate change on winter sports and tourism, 2024年10月3日, <https://wmo.int/news/media-centre/fis-and-wmo-partnership-highlights-harmful-effects-of-climate-change-winter-sports-and-tourism>

Sport Positive League, Leagues - What We Do, <https://www.sportpositiveleagues.com/leagues/>

Big Plastic Pledge, 2021年, <https://bigplasticpledge.com/about/>

Wimbledon, Resource efficiency, 2025年, https://www.wimbledon.com/en_GB/about_wimbledon/resource_efficiency.html

公益社団法人2025年日本国際博覧会協会, EXPO 2025 グリーンビジョン(2024年概要版), 2024年3月, https://www.expo2025.or.jp/wp/wp-content/uploads/20240329_greenvision_overview_r.pdf

株式会社京都パープルサンガ, 【7/5(土)新潟戦】京都サンガF.C. コラボふろしきがもらえる!(公財)環境かめおかによるふろしき体験イベント開催のお知らせ, 2025年7月4日, <https://www.sanga-fc.jp/news/detail/20140>

環境省, スポーツを楽しむことができる持続可能な未来に向けて。ヴォレアス北海道のサステナブルアクション。, 2023年1月10日, https://ondankataisaku.env.go.jp/coolchoice/sports/topic/202301_1.html

トヨタアルバルク東京株式会社, アルバルク×サーモス マイボトル推進プロジェクトレポート第二弾(2025年1月~3月), 2025年4月18日, <https://www.alvark-tokyo.jp/news/detail/alvarkwill/partner/id=19947>

湘南国際マラソン事務局, 前回大会(2024)の結果報告, <https://www.shonan-kokusai.jp/2024report-result>

公益財団法人日本財団, 今、私たちが立ち上がりなければならない理由, <https://www.heros-pledge.jp/issue/>

一般社団法人ヴァンフォーレスポーツクラブ, [一般社団法人ヴァンフォーレスポーツクラブ] Jリーグ気候アクション月間実施のお知らせ, 2025年5月28日, <https://www.ventforet.jp/news/other/524690>

東京フットボールクラブ株式会社, 4/29(火祝)清水戦「HEROs PLEDGE」リユース容器を使った飲食提供のトライアル実施のお知らせ, 2025年4月18日, <https://www.fctokyo.co.jp/news/17190>

東京フットボールクラブ株式会社, 4月29日(火)FC東京とリユース容器トライアルを実施, 2025年5月3日, https://megloo.jp/2025/05/250429_fctokyo_reuse/

株式会社鹿島アントラーズFC, カシマスタジアムの場内飲食売店全25店舗におけるコップ素材変更のお知らせ, 2025年2月21日, https://www.antlers.co.jp/news/game_info/105365

ホンダモビリティランド株式会社, Sustainability and Economy Report 2025Ver. 1, 2025年9月, <https://www.honda-mi.co.jp/company/sustainability/pdf/report.pdf>

阪神甲子園球場, 阪神甲子園球場は"eco"に Challenge します!, <https://koshien.hanshin.co.jp/eco/>

図版

※図版について、無断コピー・転載を一切禁止します。

p.7 株式会社東急エージェンシー, 夏の高校野球(2023年), 朝日新聞社 / 時事通信フォト

p.7 株式会社東急エージェンシー, 雪の少ないゲレンデ

p.7 株式会社東急エージェンシー, セーリング競技会場

p.9 株式会社東急エージェンシー, 飲み終わったペットボトル

p.9 Adobe Stock, セーリング競技会場

p.9 Adobe Stock, サッカー競技

p.9 Adobe Stock, テニス競技

p.15 公益社団法人2025年日本国際博覧会協会, 大屋根リング(2025年)

p.15 株式会社京都パープルサンガ, コラボふろしき(2025年)

p.18 ヨネックス株式会社, ポンポンスティック / 紙製の応援ボード

p.18 株式会社VOREAS, 紙製ハリセン / ハリセン活用のショッピングバッグ

p.21 トヨタアルバルク東京株式会社, サーモス マイボトル推進プロジェクトブース

p.21 湘南国際マラソン事務局, マイカップ・マイボトルマラソンの給水所(2024年), <https://www.shonan-kokusai.jp/2024report-result/>

p.24 一般社団法人ヴァンフォーレスポーツクラブ, リユース食器

p.24 一般社団法人ヴァンフォーレスポーツクラブ, リユース食器(2025年), <https://www.ventforet.jp/news/other/524690>

p.24 東京フットボールクラブ株式会社, リユース容器トライアルを実施(2025年), https://megloo.jp/2025/05/250429_fctokyo_reuse/

p.27 株式会社鹿島アントラーズFC, 茨城県立カシマサッカースタジアムで提供される紙製カップ(2025年)

p.27 ホンダモビリティランド株式会社, 植物由来の容器・カトラリー

p.30 株式会社 NTT Sports X, サステナブルステーション

p.30 阪神甲子園球場, ビール用プラスチックカップの循環型リサイクル, <https://koshien.hanshin.co.jp/eco/>



HEROs PLEDGE

スポーツ界から使い捨てプラスチックをなくそう

スポーツイベントにおける使い捨てプラスチック削減 GUIDEBOOK

2025年12月発行

発行

日本財団 HEROs PLEDGE 事務局

<https://www.heros-pledge.jp/>



連絡先

heros@ps.nippon-foundation.or.jp

調査・制作

株式会社三菱総合研究所

<https://www.mri.co.jp/>

※掲載写真・イラストの無断コピー・転載を一切禁止します。